

契約の相手方：株式会社日総建中部事務所

テーマ 地域の歴史や特性を踏まえたうえで、文部科学省の提唱する新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を実現する施設整備について

1. 業務の実施方針

1. 設計方針と改修目的の把握

丁寧なヒアリングと調査を実施し、歴史ある両校と地域の特色を最大化する設計方針と本当に必要な改修項目を設定します。そのうえで改修範囲を最小限に抑えるなど、学校運営への影響に配慮の上、工事費削減と工期短縮を実現します。

2. 設計手法における方針

業務の実施に当たっては、これまでの改修設計での経験を踏まえ、まず既存建物の現状、増改築の経緯について十分に調査・分析を行い、これまで見えてこなかった問題点の有無を確認し、改修設計の元となる既存図を作成します。

2. 設計チームの特徴

1. 学校計画に経験豊富な

設計チームとバックアップ体制

学校の改築・改修設計に精通した総括担当者のもと、学校設計の実績豊富な設計者をコアスタッフとしたチーム編成を行います。意匠、構造、設備の各担当の他に、事業概算コストの検証を実施する積算担当、改修事業やエコスクール等の補助金に係る担当を独自に配置し、業務の進捗に合わせて専門スタッフによるバックアップ体制を構築します。



2. コミュニケーションを重視

名古屋市職員様・統合小学校教職員様との密なコミュニケーション(定例打合せやヒアリングシートによる確認作業)を通じて、意思疎通を図ります。また、合意形成ツールの一つとして、BIMを活用した3Dイメージを作成し、学校内外の改修イメージ、空間の設えについて、ビジュアル的に共有を図ります。



3. 特に重視する設計上の配慮事項

1. 最小限の増築と仮設校舎の活用により、効率的かつ現実的な段階的改修計画を実現

居ながら工事の条件と仮設校舎の配置計画を比較検討し、何よりも学校運営への影響及び生徒の学び舎としての在り方の観点から総合的な改修計画を立案致します。

2. 長寿命化改修の提案

耐震性能強化やバリアフリー、環境負荷低減の措置を施し、「建物人・環境」にやさしい視点より建物の長寿命化を図る計画とします。設備の長寿命化改修の視点として、省エネルギー化対応と予防保全の観点から機器選定、機器配置を行います。

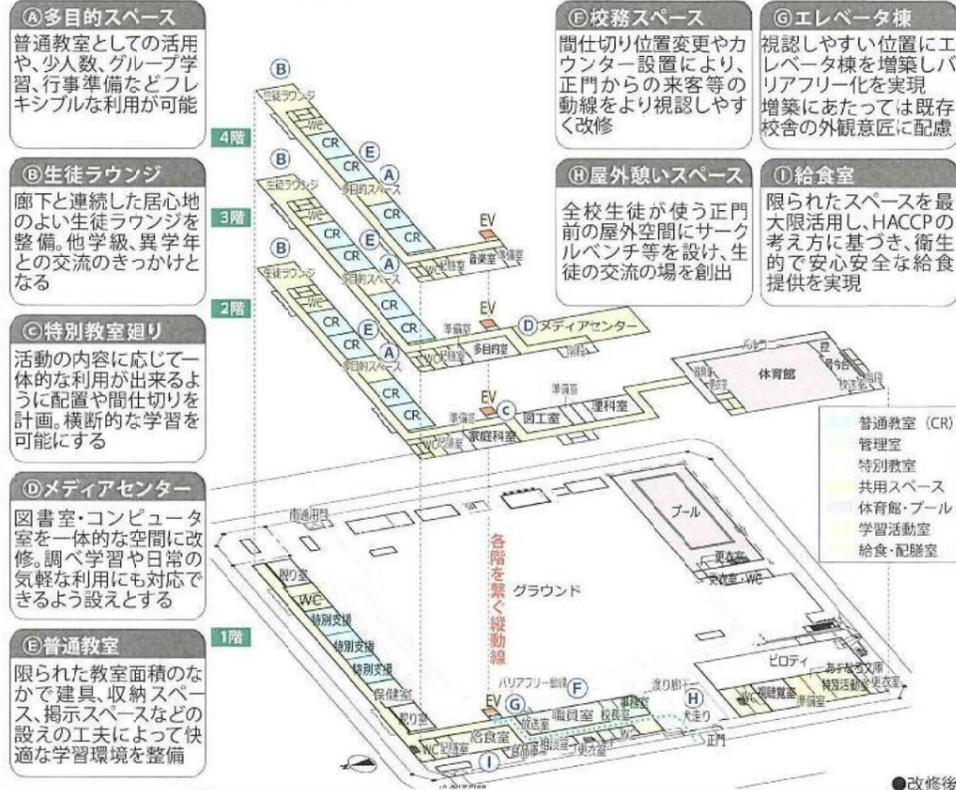


4. 良好な学習環境を実現する改修計画の提案

1. 既存校舎の状況を読み解き最小限の増築と段階的改修計画による整備
・既存校舎の教室利用状況分析の上、特別教室の間仕切り位置や配置変更による横断的な学びの空間を計画します。
・専用設備が必要な教室は配置を変えず、工事期間中の学習環境への影響及び改修コストの低減を図ります。仕上り設備の更新による快適な学習空間への改修計画を提案します。

2. バリアフリー化を実現する動線計画

エレベータ棟の増築、校舎内外の段差解消、多目的トイレの整備を行い学校全体の移動空間の改善を図ります。



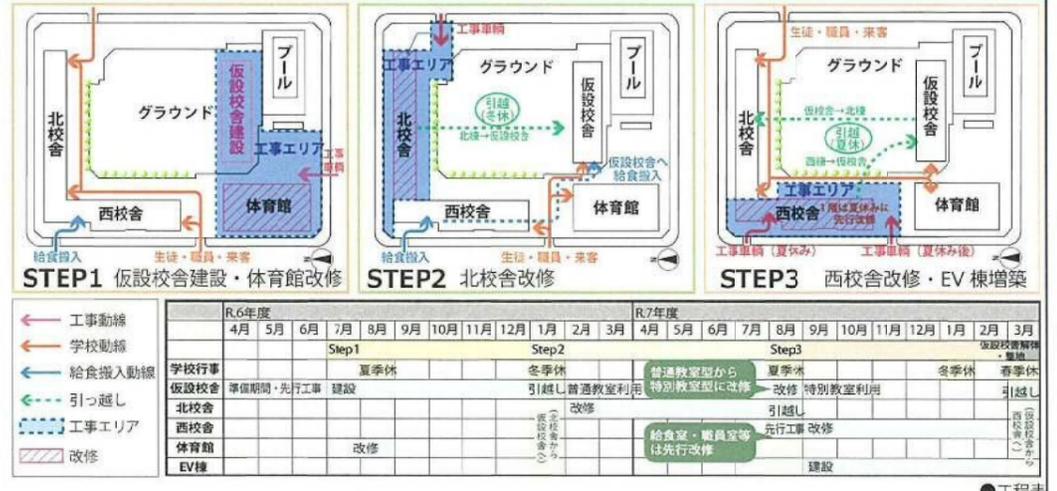
6. 生徒・教職員・地域への負担低減を実現する工事計画

1. 休暇期間等を最大限活用した工事工程

休暇期間を最大限活用し、仮設校舎の設置・撤去工事や給食室・体育館等代替スペースが確保できない諸室の改修工事を計画することで、授業等に影響を及ぼさない工事工程を実現します。

2. 安全安心を確保する学校動線と工事動線の完全分離

段階的な改修工事計画において、工事エリアは集約かつ明確化を図り、「学校の生徒動線、教職員・来客動線」と「工事動線」は交錯させない工事計画を実現します。周辺環境に影響する道路への出入口部については、設計段階で仮設計画を立案し、適切な誘導員配置やゲート計画を立案します。



5. 学びを育て、多様な交流を創出する学校づくり

1. 多様な学習形態に対応する普通教室・多目的スペース(A)(B)
・生徒数の増減に対応する空き教室はグループ学習用の多目的スペースやラウンジ、少人数教室として活用します。
・多目的スペースは教室間に配置することで、利便性を確保し年間行事の準備や特別授業時に利用できる計画とします。



2. 興味を引き出し学びの幅を広げる特別教室(C)

教科の垣根を超えた多様性を生む学びの場をつくります。活動の内容に応じて一体的な利用が出来る設えや配置を提案します。



3. 教職員のチーム力を高めるワークプレイス(F)

校務スペースから玄関への視認性を高める計画とします。玄関からエレベータホールまでの来客動線を明瞭にし、目視での安全確認や補助対応を可能とします。



本資料は設計業者が設計プロポーザルにあたって作成した提案書であり、実際の設計内容とは異なります。